

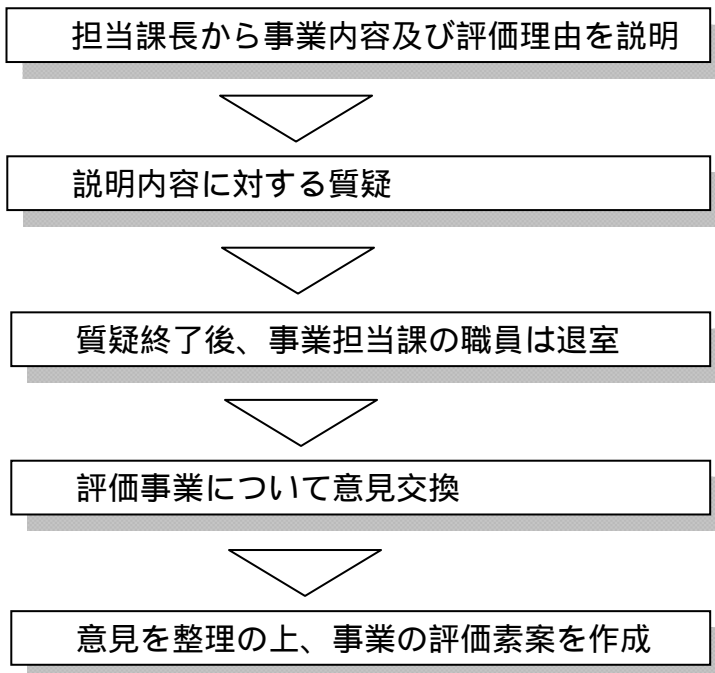
外部評価の概要について

1 評価の目的

市の担当課が行った事業の自己評価について、外部の視点から再検証を行うことで、評価の客観性や信頼性を高めるとともに、効率的で質の高いサービスの提供につなげることを目的とする。

2 評価の流れ

1事業あたり40分間で実施し、評価の流れは次のとおりとする。



3 評価の方法

事務事業評価シートに記載された情報やヒアリングの内容を踏まえ、今後の事業の在り方（進め方）について、具体的な意見を付す。

4 評価の視点

妥当性

- 社会経済情勢の変化等により、事業の実施意義が低下していないか。
- 市民ニーズに比べて、サービスの供給が過剰となっていないか。
- 他の自治体と比較して、サービス水準が著しく高くないか。
- 市と民間の役割分担は適切か。

有効性

- 事業の成果が上位施策の目標達成に結びついているか。
- 事業内容を工夫することで、更に成果を向上させることができないか。
- 他に類似・重複する事業はないか。

効率性

- 事務改善による経費削減の余地はないか。
- 民間委託等による経費削減の余地はないか。

5 対象事業選定基準

今年度の事務事業評価対象事業

事業の実施に当たり、市に裁量の余地がある事業

事業開始から3年が経過している事業

直接事業費に占める一般財源が50万円以上の事業

外部の視点から検証を行うことが有効と判断される事業

6 対象候補事業

上記5の基準に該当する事業の中から、8事業を候補として選定

資料参照